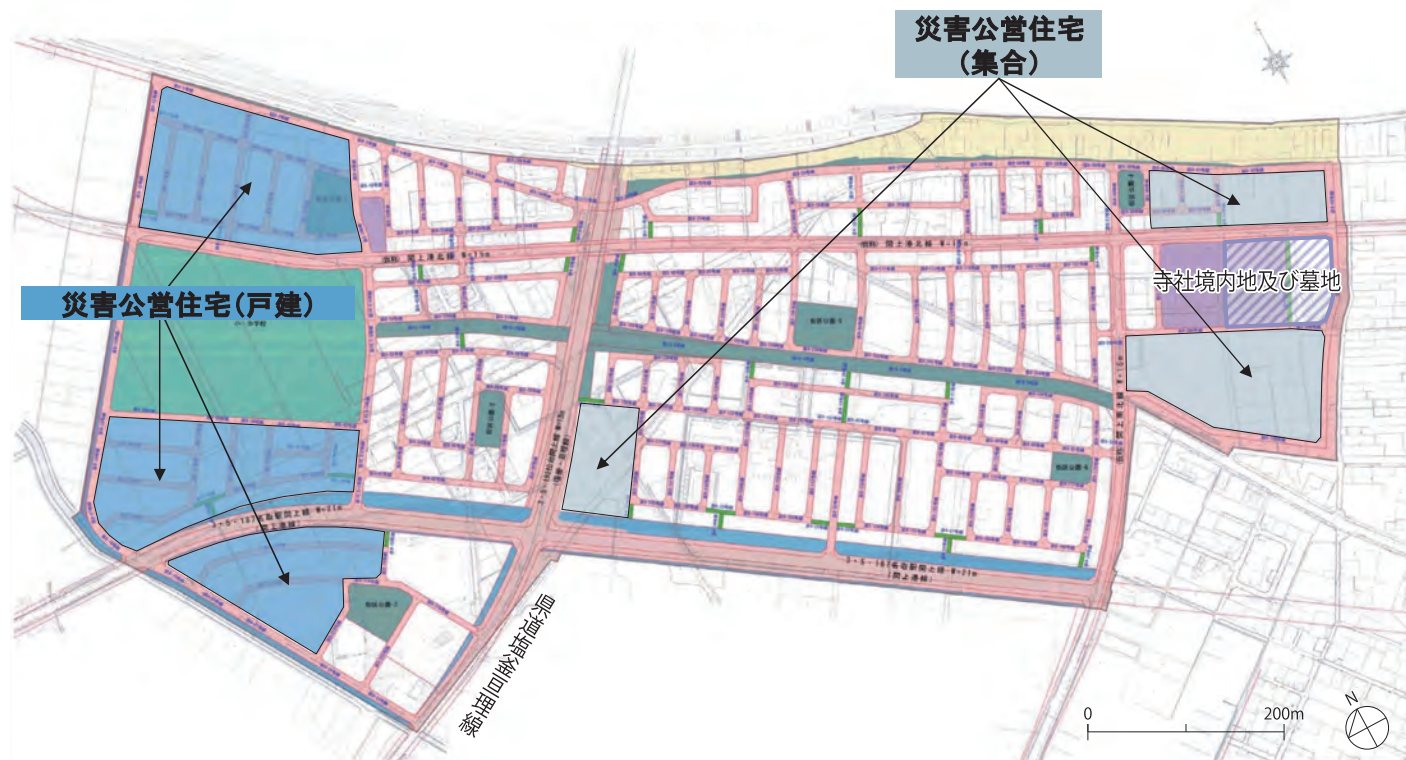


提案－3 災害公営住宅の配置について

○現行計画に対する見解

- ・住棟配置や間取り等に関する現行計画がないため具体的な検討ができない。
- ・災害公営住宅の戸建と集合が隔離している。
- ・寺社境内地及び墓地付近に災害公営住宅(集合)が位置している。
- ・検討の進め方が、災害公営住宅(戸建)と一般住宅地で異なる。
- ・県道沿いの土地利用は商業の方が相応しいのではないか。



協議会の提案内容

- ・災害公営住宅は県道の東側に集合住宅、西側に戸建住宅を配置する現行計画を基本とするが、コミュニティ居住等に配慮して、戸建住宅を集合住宅付近に配置する。

協議会が考察・検討してきた内容

① 閑上地区再建希望の状況

※ 名取市提供情報 (名取市被災者住宅再建状況調査及び災害公営住宅最終入居意向調査:平成26年4月集計) より

- ▶ 閑上地区再建希望755世帯のうち、災害公営住宅の入居希望は524世帯であり、全体の約7割を占める。
- ▶ 閑上地区再建希望者の高齢化率は約30%であり、災害公営住宅の入居希望者だけでみると高齢化率は約35~40%である。

② 閑上地区まちづくりにとって重要な災害公営住宅

- ▶ 再建希望の約7割を占める災害公営住宅は、閑上地区の街並みに大きく関与するため、良好な街並み形成を先導的に進める。
- ▶ 災害公営住宅の高齢化率は、閑上地区全体の高齢化率より高いため、個人のプライバシーを尊重した見守りと共生などを可能にする高齢者にも配慮した住環境整備やコミュニティづくりを先導的に進める。

③ 災害公営住宅の継続検討の必要性

- ▶ 災害公営住宅の配置だけでなく、集合住宅と戸建住宅に分けた検討や建物詳細の検討を継続的に行う必要がある。想定される内容(ハード及びソフト)を以下に示す。

<配置の考え方>

寺社境内地及び墓地付近は、墓地の見え方の対策が可能な集合住宅を配置
 交通量の多い県道沿いは、騒音などの対策が可能な集合住宅を配置
 小中学校付近の広い用地(現・農地)は、早期に開発される戸建住宅を配置

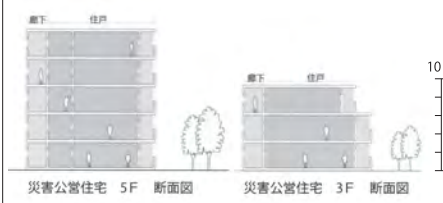
<面積の目安> 集合住宅は1棟あたり50戸・敷地面積は約7,500㎡
 戸建住宅は1戸あたりの敷地面積が約180㎡

<入居時期> 平成28年春 災害公営住宅(戸建)
 平成29年春 災害公営住宅(集合)

災害公営住宅 - 集合住宅

- a. 一棟あたりの戸数, 面積
- b. 集会所の設置, 使い方
- c. 敷地内の住棟配置, 高さ
- d. 住まい方のルール
- ・・・など

例) 集合住宅の住棟の高さの検討



災害公営住宅 - 戸建住宅

- a. 一戸あたりの敷地面積
- b. 住宅地のコミュニティづくり(ポケットパークの導入, ごみ置場ルール)
- ・・・など

例) コミュニティづくりのイメージ - リビングアクセス(見守り重視)



建物詳細プラン - 間取り等

- a. バリアフリー (エレベータ, スロープ, 手すり等の設置)
- b. 気候風土を活かす間取り
- ・・・など

例) 気候風土 - 通風確保した間取り

